

P 0 7 0 1 5
P 1 3 0 1 0
P 1 4 0 2 2

2019年度実施方針

新エネルギー部

1. 件名：風力発電等技術研究開発

2. 根拠法

- ・研究開発項目①「洋上風力発電等技術研究開発」
「国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法第15条第1号イ及び第3号」
- ・研究開発項目②「風力発電高度実用化研究開発」
「国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法第15条第1号イ及び第3号」

3. 背景及び目的、目標

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、エネルギー政策が見直されており、今後の日本のエネルギー供給を支えるエネルギー源として、新エネルギーへの期待がさらに高まっている。

2016年12月13日に、調達価格等算定委員会により取りまとめられた、「2017年度以降の調達価格等に関する意見」では、「風力発電については、資本費、運転維持費の高さや、設備利用率の低さにより、他国と比較しても発電コストが高いことから、導入拡大とともにコスト低減を進めていく必要がある。導入環境整備や、低コスト化・設備利用率向上に向けた取組の支援（スマートメンテナンス等）を進めることにより、固定価格買取制度から自立した形での導入を目指していくべき」とされている。

さらに、2018年7月3日に閣議決定された「第5次エネルギー基本計画」において、再生可能エネルギーについては、2030年のエネルギーミックスにおける電源構成比率の実現とともに、確実な主力電源化への布石としての取組を早期に進めると言及され、洋上風力発電の導入促進及び着床式洋上風力の低コスト化、浮体式洋上風力の技術開発や実証を通じた安全性・信頼性・経済性の評価を行うことが盛り込まれている。

本研究開発では、風力発電に係る上記の課題を克服すべく、洋上風力発電に係る施工技術の開発等による一層の低コスト化に資する先進的な技術開発を行うとともに、風車のダウンタイム及び運転維持コストの低減、さらに発電量向上を目指した技術開発を行うことにより、風力発電の導入拡大及び産業競争力の強化に資することを目的とする。

- ・研究開発項目①「洋上風力発電等技術研究開発」

i) 洋上風況観測システム実証研究、iii) 洋上風力発電システム実証研究
最終目標（2017年度）

実証研究により、我が国の海象・気象条件に適した、洋上風況観測システム、洋上風力発電システムの技術を確立する。

中間目標（2014年度）

1年以上運転・保守を実施し技術課題の検討を行い、洋上風力発電導入に関するガイドブックのための研究成果をとりまとめる。

中間目標（2012年度）

詳細な海域調査、環境影響評価調査及び技術課題の検討を完了し、洋上風況観測システム及び洋上風力発電システムの設置を終了する。

ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究

最終目標（2022年度）

事業終了後（2023年以降）、水深50～100mを対象に、発電コスト23円/kWhで実用化可能な浮体式洋上風力発電システム技術（バージ型）、及び2030年に発電コスト20円/kWh以下を達成できる浮体式洋上風力発電システムの技術（要素実証）を確立する。

中間目標（2015年度）

水深50m～100mの実海域における低コストの浮体式洋上風力発電システムのFSを完了し、実証研究の実現可能性を示すと共に、事業化時の建設コストを検証する。

中間目標（2017年度）

発電コスト20円/kWhを実現可能な浮体式洋上風力発電の要素技術の性能評価及び実海域でのFSを行い、実証研究の実現可能性を示す。（要素開発）

中間目標（2020年度）

実証事業（バージ型及び要素実証）に着手し、性能評価及びコスト評価等に必要データの取得を開始する。

iv) 洋上風況観測技術開発

最終目標（2015年度）

実海域で風況実測を行い、洋上風況観測システムの技術を確立する。

中間目標（2014年度）

洋上風況観測システムの設計と試験機製作を終了する。

v) 超大型風力発電システム技術研究開発

最終目標（2014年度）

市場ニーズに対応した、革新的な超大型風力発電システムの技術を確立する。

中間目標（2012年度）

超大型風力発電システムの技術的課題の検討を終了し、5MWクラス以上の風車に必要な要素技術の基本的な機能評価を終了する。

vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発

最終目標（2022年度）

洋上風力発電システムの低コスト化を目指した施工技術シーズを抽出し、資本費（CAPEX）を20%低減する技術を確立する。なお、具体的な削減目標値は、想定される海域の特性等を踏まえ、実証開始時に適切な目標を設定することとする。

中間目標（2020年度）

洋上風力発電システムの低コスト化を目指した、基礎構造、海底地盤調査、国内インフラに適した施工等の先進的な技術について実海域での実証に着手する。

・研究開発項目②「風力発電高度実用化研究開発」

i) 10MW超級風車の調査研究

最終目標（2014年度）

10MW以上の超大型風車のシステム等に係る課題を抽出し、実現可能性を評価する。

ii) スマートメンテナンス技術研究開発

最終目標（2017年度）

既設風車による実証試験を完了し、メンテナンスシステムを確立するとともに、設備利用率23%以上を達成する。また、雷被害による風車のダウンタイムを短縮するため、雷検出装置等における所要性能の検討及び評価等に係る健全性確認技術の開発を行う。さらに、風車メンテナンスに関する人材育成プログラムを作成する。

iii) 風車部品高度実用化開発

最終目標（2016年度）

プロトタイプ機におけるフィールド試験を完了し、風車の総合効率を20%以上向上する。また、小形風車の標準化においては要素部品の仕様を決定し、コストを30%以上削減する。

iv) 風車運用高度化技術研究開発

最終目標（2020年度）

風車のダウンタイム及び運転維持コスト低減に向け、維持管理を的確に行い、風車稼働率（利用可能率）を97%以上に向上させる技術を確立する。

4. 実施内容及び進捗（達成）状況

4.1 2018年度の事業内容

研究開発項目毎の別紙に記載する。

4.2 実績推移

・研究開発項目①「洋上風力発電技術研究開発」

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
実績額(需給) (百万円)	1,384	1,186	4,045	4,202
特許出願件数(件)	12	0	0	0
論文発表数(報)	16	21	18	24
フォーラム等(件)	40	10	33	10

年 度	2017 年度	2018 年度
実績額(需給) (百万円)	7,057	4,471
特許出願件数(件)	0	0
論文発表数(報)	12	4
フォーラム等(件)	5	5

・研究開発項目②「風力発電高度実用化研究開発」

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度
実績額(需給) (百万円)	374	1,367	959	872
特許出願件数(件)	0	14	27	2
論文発表数(報)	0	6	6	12
フォーラム等(件)	0	4	27	19

年 度	2017 年度	2018 年度
実績額(需給) (百万円)	243	132
特許出願件数(件)	1	0
論文発表数(報)	21	3
フォーラム等(件)	29	11

5. 事業内容

5. 1 2019年度事業内容

研究開発項目毎の別紙に記載する。

5. 2 2019年度事業規模

需給勘定 5, 410百万円（継続・追加）

事業規模については、変動があり得る。

6. 事業の実施方式

研究開発項目毎の別紙に記載する。

7. その他重要事項

研究開発項目① ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究の(4)要素技術実証、vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発、iv) 風車運用高度化技術研究開発については、「NEDOプロジェクトにおける知財マネジメント基本方針」に従ってプロジェクトを実施する。

8. スケジュール

研究開発項目毎の別紙に記載する。

9. 実施方針の改訂履歴

(1) 2019年1月28日、制定

(2) 2019年7月31日、プロジェクトマネージャーの変更、和暦を西暦へ修正。

(3) 2019年10月7日、別紙2. 2 2019年度（助成）事業内容vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発（1）事業方針について、実施内容を一部追加。またそれに伴い、公募・スケジュール追加。

(別紙)

- ・研究開発項目①「洋上風力発電等技術研究開発」

1. 実施内容及び進捗（達成）状況

プロジェクトマネージャーにNEDO 新エネルギー部 伊藤 正治統括調査員又は佐々木 淳主任研究員を任命して、プロジェクトの進行全体の企画・管理や、そのプロジェクトに求められる技術的成果及び政策的効果を最大化させた。

また、国立大学法人東京大学大学院 工学研究科 教授 石原 孟氏をプロジェクトリーダーとし、その下で連携を取りつつ、以下の研究開発を実施した。

1. 1 2018年度（委託）実施内容

ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究

(1) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（バージ型）

次世代浮体式洋上風力発電システム実証機の実証運転開始に向けて、北九州市の港湾での浮体への風車設置、実証機係留のための係留チェーン・アンカーの把駐力試験、陸上の系統へ送電するための電力ケーブルの敷設、実海域への設置、試運転・調整を行った。

また、実証運転中の効率的な維持管理に向けて、遠隔で風車状態をモニタリングするシステムの構築や遠隔型無人潜水艇（ROV）による浮体、係留チェーン検査方法について検討を行った。（実施体制：丸紅株式会社、国立大学法人東京大学、九電みらいエナジー株式会社、日立造船株式会社、コスモエコパワー株式会社、株式会社グローバル）

(2) 共通基盤調査

実証研究に関する技術情報の収集・整理を実施した。また、事業紹介用ホームページを運用・更新し、情報発信を行った。（実施体制：国際航業株式会社）

(3) 要素技術実証

浮体式洋上風力発電の更なる低コスト化に資する先進的な要素技術を用いた浮体式洋上風力発電システムの実証に向けて、実現可能性や事業性を評価するフィージビリティ・スタディ（FS）として、実証海域における基本設計や海域調査、事前協議などを行った。（実施体制：豊田通商株式会社、株式会社グローバル、株式会社寺岡、国立大学法人九州大学、国立大学法人東京大学、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所）

1. 2 2018年度（助成）実施内容

iv) 洋上風力発電低コスト施工技術開発

洋上風力発電施設の低コスト化に向けた基礎構造および施工技術に関する技術の実証に先立ち、実際にこれらの技術の適用が想定される海域の特性など

を踏まえた詳細な適用範囲やコスト低減の目標を設定するため、フェージビリティ・スタディ（FS）を実施した。

2. 事業内容

プロジェクトマネージャーにNEDO 新エネルギー部 伊藤 正治統括調査員又は佐々木 淳主任研究員を任命して、プロジェクトの進行全体の企画・管理や、そのプロジェクトに求められる技術的成果及び政策的効果を最大化させる。

また、国立大学法人東京大学大学院 工学研究科 教授 石原孟氏をプロジェクトリーダーとし、その下で連携を取りつつ、以下の研究開発を実施する。

2. 1 2019年度（委託）事業内容

〔委託事業〕

ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究

(1) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（バージ型）

次世代浮体式洋上風力発電システムの実証機の実証運転を実施し、浮体式洋上風力発電システムに関する効率的な維持管理方法、実証機システムから得られる計測値と設計値を比較の上、設計の妥当性について評価する。（実施体制：丸紅株式会社、国立大学法人東京大学、九電みらいエネルギー株式会社、日立造船株式会社、コスモエコパワー株式会社、株式会社グローバル）

(2) 要素技術実証

浮体式洋上風力発電の更なる低コスト化に資する先進的な要素技術を用いた浮体式洋上風力発電システムの実証機の詳細設計の一部を実施する。（実施体制：豊田通商株式会社、株式会社グローバル、株式会社寺岡、国立大学法人九州大学、国立大学法人東京大学、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所）

(3) 次世代浮体式洋上風力基盤調査

次世代浮体式洋上風力発電について、バージ型及び要素技術実証の成果を浮体式洋上風力発電ガイドブックとして取りまとめる。ガイドブックのとりまとめにあたり、海外の技術動向調査を実施し、我が国における浮体式洋上風力発電の技術評価指標を作成し、バージ型及び要素技術実証の評価を行う。さらに、技術委員会を設置し、バージ型及び要素技術実証の進捗動向の把握、課題等の検証を行う。また、事業紹介用ホームページを運用・更新し、情報発信を行う。

2. 2 2019年度（助成）事業内容

vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発

(1) 事業方針

2018年度実施のFSを継続し、実証を行うための詳細な海域調査及び設計を行い、コスト低減の実現可能性を評価のうえ、実証を開始する。

3. 事業の実施方式

3. 1 公募

(1) 掲載する媒体

「N E D Oホームページ」及び「e-Radポータルサイト」に掲載する。

(2) 公募開始前の事前周知

公募開始の1か月前にN E D Oホームページにて予告を行う。本事業はe-Rad対象事業であり、e-Rad参加の案内も併せて行う。

(3) 公募時期・公募回数（予定）

2019年3月上旬（研究開発項目① ii（3））

2019年11月中旬（研究開発項目① vi（1））

(4) 公募期間

原則30日間以上とする（ただし、委託予定額が20百万円を超えない場合は14日以上とする）。

(5) 公募説明会

2019年3月中旬（研究開発項目① ii（3））

2019年11月下旬（研究開発項目① vi（1））

3. 2 採択方法

(1) 審査方法

e-Radシステムへの応募基本情報の登録は必須とする。

委託事業者の選定・審査は、公募要領に合致する応募を対象にN E D Oが設置する審査委員会（外部有識者で構成、非公開）で行う。審査委員会において提案書の内容に係る評価を行い、本事業の目的の達成に有効と認められる委託事業者を選定した後、N E D Oはその結果を踏まえて委託事業者を決定する。

提案者に対して、必要に応じてヒアリング等を実施する。

審査委員会は非公開のため、審査経過に関する問い合わせに応じない。

(2) 公募締切から採択決定までの審査等の期間

45日間とする。

(3) 採択結果の通知

採択結果については、N E D Oから提案者に通知する。なお、不採択の場合は、その明確な理由を添えて通知する。

(4) 採択結果の公表

採択案件については、申請者の名称、研究開発テーマの名称・概要を公表する。

4. その他重要事項

(1) 評価の方法

研究開発項目①についてNEDOは、政策的観点、事業の意義、成果、普及効果等の観点から、事業評価を実施する。

なお、評価の時期は、研究開発項目①の i)、 iii)、 iv) v) については前倒し事後評価を2017年度に実施し、ii) については、中間評価を2018年度、2020年度、事後評価を2023年度に実施し、vi) については、2020年度に中間評価を、2023年度に事後評価を実施する。

なお、当該研究開発に係る技術動向、政策動向や当該研究開発の進捗状況等に応じて、前倒しする等適宜見直すものとする。

(2) 運営・管理

NEDOは、研究開発内容の妥当性を確保するため、社会・経済的状況、内外の研究開発動向、政策動向、評価結果、研究開発費の確保状況、当該研究開発の進捗状況等を総合的に勘案し、達成目標、実施期間、研究開発体制等、基本計画の見直しを弾力的に行うものとする。

また、NEDOは、プロジェクトで取り組む技術分野について、内外の技術開発動向、政策動向、市場動向等について調査し、技術の普及方策を分析、検討する。なお、調査等を効率的に実施する観点から委託事業として実施する。

(3) 複数年度契約・交付決定の実施

原則として2018～2022年度の複数年度契約・交付決定を行う。

(4) 継続事業に係る取扱いについて

助成先は前年度と変更は無い。

2018年度助成先：株式会社風力エネルギー研究所、日立造船株式会社、株式会社吉田組、若築建設株式会社、むつ小川原港洋上風力開発株式会社

(5) 標準化施策等との連携

得られた研究開発成果については、標準化等との連携を図ることとし、標準化に向けて開発する評価手法の提案、データ提供等を積極的に行う。なお、先端分野での国際標準化活動を重要視する観点から、NEDOは、研究開発成果の国際標準化を戦略的に推進する仕組みを構築する。

5. スケジュール（予定）

下記の公募を実施する。

ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究／次世代浮体式洋上風力基盤調査

2019年3月上旬・・・公募開始
3月中旬・・・公募説明会
4月上旬・・・公募締切
5月中旬・・・採択結果の通知

vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発

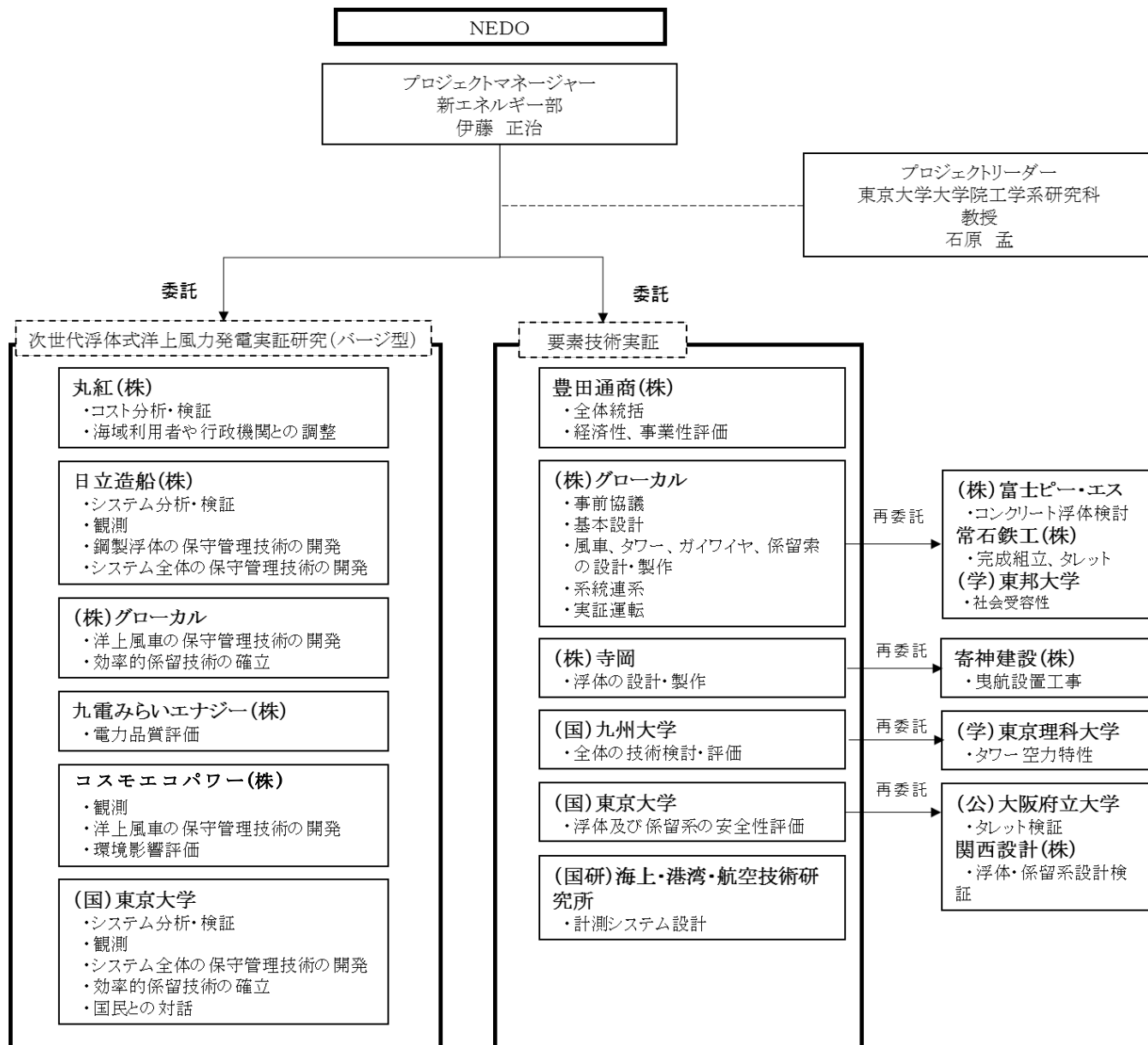
2019年11月中旬・・・公募開始
11月下旬・・・公募説明会
12月中旬・・・公募締切
1月上旬・・・採択結果の通知

2019年度事業実施体制の全体図

研究開発項目①「洋上風力発電等技術研究開発」

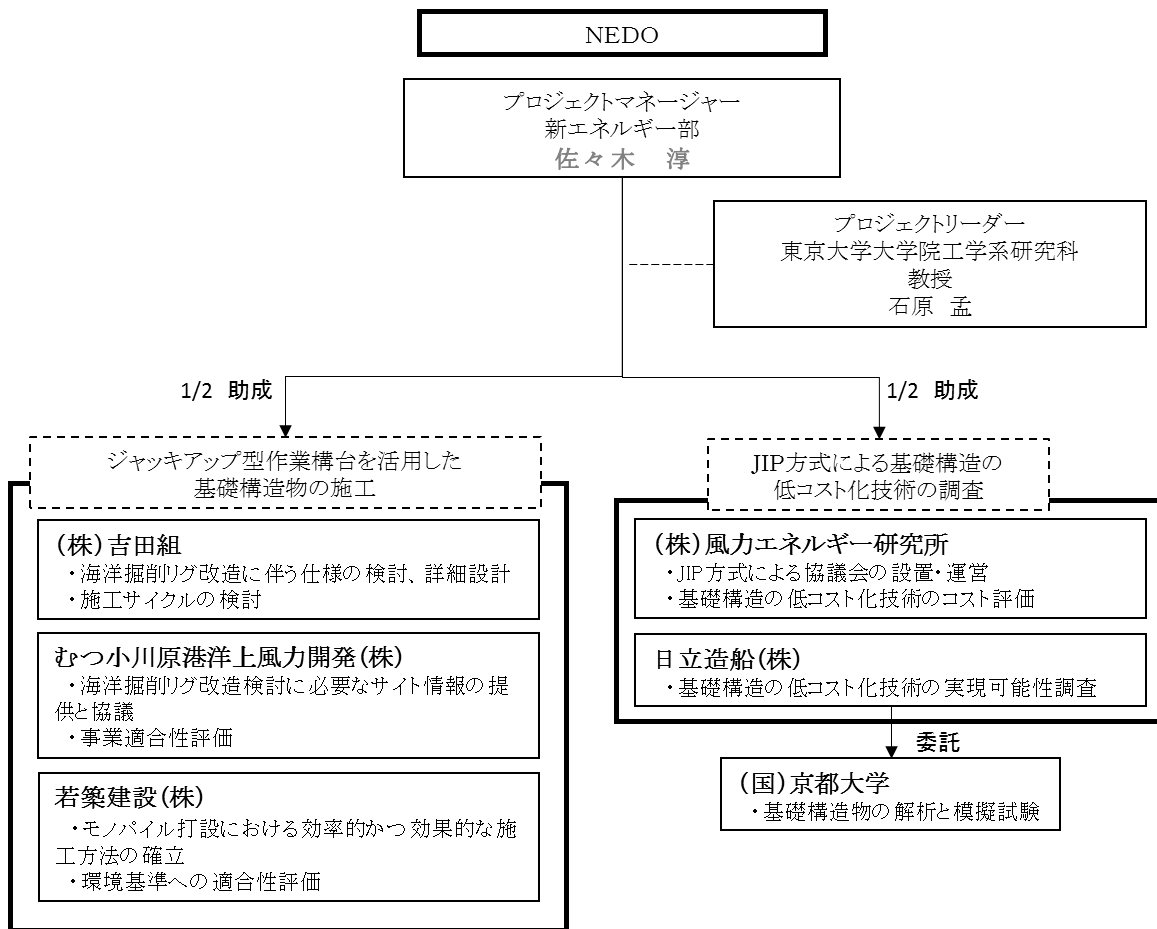
ii) 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究

【実施体制図】



vi) 洋上風力発電低コスト施工技術開発

【実施体制図】



(別紙)

・研究開発項目②「風力発電高度実用化研究開発」

1. 実施内容及び進捗（達成）状況

プロジェクトマネージャーにNEDO 新エネルギー部 佐々木 淳主任研究員を任命して、プロジェクトの進行全体の企画・管理や、そのプロジェクトに求められる技術的成果及び政策的効果を最大化させた。

また、一般社団法人日本風力エネルギー学会 代表委員 勝呂 幸男氏をプロジェクトリーダーとし、その下で連携を取りつつ、以下の研究開発を実施した。

1. 1 2018年度（委託）事業内容

iv) 風車運用高度化技術研究開発

風車部品の故障による停止時間の縮小を図るため、国内風車の定期点検記録や故障等の事象及び、主軸受、増速機、発電機等の振動センサー出力を収集する風車事業者およびメーカー、メンテナンス事業者が活用可能なデータベースの基本設計を実施した。

2. 事業内容

プロジェクトマネージャーにNEDO 新エネルギー部 佐々木 淳主任研究員を任命して、プロジェクトの進行全体の企画・管理や、そのプロジェクトに求められる技術的成果及び政策的効果を最大化させる。

また、一般社団法人日本風力エネルギー学会 代表委員 勝呂 幸男氏をプロジェクトリーダーとし、その下で連携を取りつつ、以下の研究開発を実施する。実施体制については、別紙を参照のこと。

2. 1 2019年度（委託）事業内容

iv) 風車運用高度化技術研究開発

風車部品の故障による停止時間の縮小を図るため、国内風車の定期点検記録や故障等の事象及び、主軸受、増速機、発電機等の振動センサー出力を収集し、風車事業者およびメーカー、メンテナンス事業者が活用可能なデータベースの詳細設計を実施する。（実施体制：国立大学法人東京大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、学校法人中部大学中部大学、株式会社風力エネルギー研究所）

3. その他重要事項

(1) 評価の方法

研究開発項目②についてNEDOは、技術的及び政策的観点から、研究開発の意義、目標達成度、技術的及び政策的観点から、研究開発の意義、目標達成度、成果の技術的意義並びに将来の産業への波及効果等について、i)、ii)、iii) について2018年度に事後評価を実施、iv) について、2021年度に事後評価を実

施する。なお、当該研究開発に係る技術動向、政策動向や当該研究開発の進捗状況等に応じて、前倒しする等適宜見直すものとする。

(2) 運営・管理

NEDOは、研究開発内容の妥当性を確保するため、社会・経済的状況、内外の研究開発動向、政策動向、評価結果、研究開発費の確保状況、当該研究開発の進捗状況等を総合的に勘案し、達成目標、実施期間、研究開発体制等、基本計画の見直しを弾力的に行うものとする。

また、NEDOは、プロジェクトで取り組む技術分野について、内外の技術開発動向、政策動向、市場動向等について調査し、技術の普及方策を分析、検討する。なお、調査等を効率的に実施する観点から委託事業として実施する。

(3) 複数年度契約の実施

原則として2018～2021年度の複数年度契約を行う。

(4) 標準化施策等との連携

得られた研究開発成果については、標準化等との連携を図ることとし、標準化に向けて開発する評価手法の提案、データ提供等を積極的に行う。なお、先端分野での国際標準化活動を重要視する観点から、NEDOは、研究開発成果の国際標準化を戦略的に推進する仕組みを構築する。

2019年度事業実施体制図

研究開発項目②「風力発電高度実用化研究開発」

iv) 風車運用高度化技術研究開発

【実施体制図】

